

防災を展示する

岐阜県博物館 自然係 熊澤 忍

1. はじめに

岐阜県博物館において、令和3年10月8日（金）～12月12日（日）の57日間、特別展「今日から防災！ - 過去を知り、未来へ備えよう -」を開催した。この特別展は、毎年のように全国各地で発生する自然災害に焦点を当てるだけでなく、家庭でできる備えについても展示することで、いざという時の減災について家庭で考える機会とすることを目的として実施した。本特別展では、大雨や火山噴火、地震といった自然現象が発生するメカニズムや過去に岐阜県で発生したそれらの災害、それぞれの対策や発災時の備えなどを展示、紹介した。

ここでは、その展示内容や展示方法、開催結果を紹介する。

2. 展示の概要

1) 展示概要

豪雨や地震など、毎年のように日本各地で様々な自然災害が発生している。岐阜県は、森林面積は約8割と、豊かな自然に恵まれている一方で、県内には活断層が10枚以上、活火山は5つも存在するだけでなく、平成31年7月や令和2年7月の大雨では、県内各地で河川の氾濫や土砂災害が数多く発生している。

本特別展では、大雨、火山噴火、地震に焦点を当て、それらの発生の仕組みや災害の状況を紹介するとともに、家庭でできる減災や災害発生時のための備えについても展示、紹介した。また、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）の協力を得て、フェーズドアレイ気象レーダの模型や航空機搭載合成開口レーダのアンテナポッドを展示し、最新の観測技術を紹介するだけでなく、当館が行ってきた被災資料の修復作業についても紹介した。さらに、展示期間中には、地震体験車による、地震の揺れを体験するイベントや、平成26年の御嶽山噴火に関わった火山学者や気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館前館長を招いた講演会を開催した。展示に加え、イベントを数多く開催することで、来館者が楽しみながら災害をより身近なものとしてとらえ、防災・減災について学び考える機会とした。

2) 実施結果

開催期間：令和3年10月8日（金）～12月12日（日）（開催日数 57 日間）

主 催：岐阜県博物館、岐阜新聞社 岐阜放送

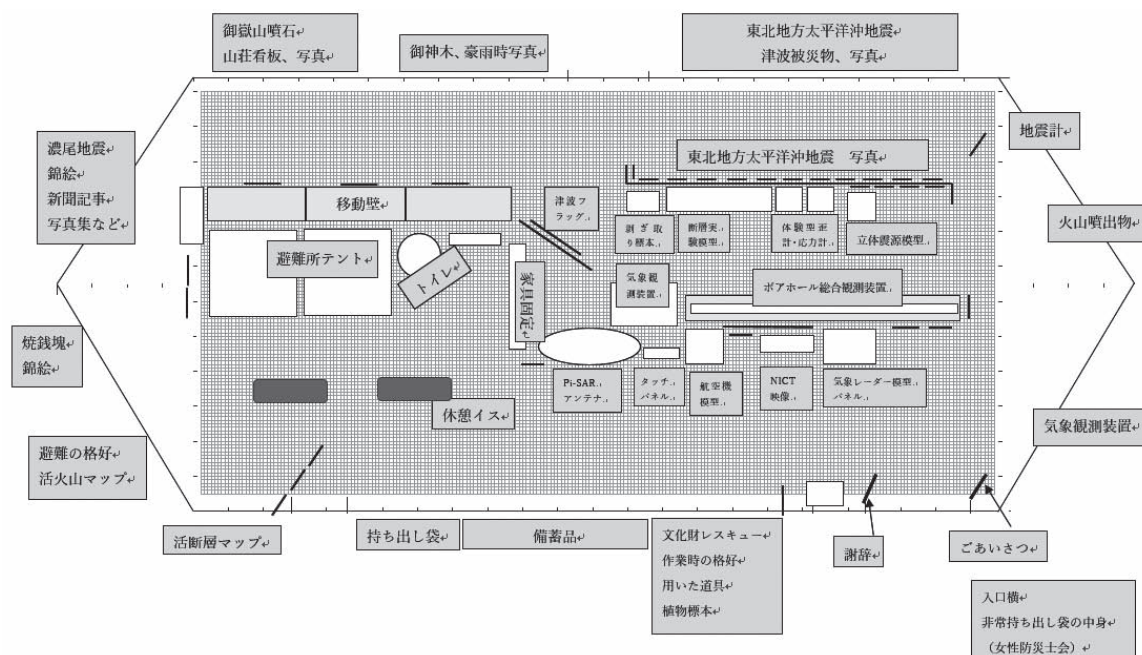
後 援：NHK岐阜放送局、岐阜県教育委員会

協 力：国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター
リアス・アーク美術館

会 場：岐阜県博物館 本館 4 階特別展示室

入館者数：12,494 名

入 場 料：大人 600 円、大学生 300 円、高校生以下無料



会場レイアウト

2. 展示内容および関連事業

本展示では、「自然災害とそのしくみ」、「岐阜県で起きた災害」、「もしもに備える」の3章立てとし、175点の資料（実物資料96点、パネル79枚）で構成した。また、特別展期間中、2回の講演会と2日間の地震体験イベントを開催した。

1) 各章について

第1章では、「自然災害とそのしくみ」と題し、大雨、火山噴火、地震は一つの自然現象であることを示しながら、それらの現象がどのように発生するのかパネルで解説したり、どのように観測しているのか、観測機器や模型などを展示したりした。観測機器は、岐阜地方気象台や公益財団法人 地震予知総合研究振興会 東濃地震科学研究所の協力により、実際に使われている機器や、当館所蔵の噴石や火山灰などを展示した。また、宮城県気仙沼市のリアス・アーク美術館の協力を得て、東北地方太平洋沖地震によって発生した津波による被災物や発災時の様子を収めた写真、リアス・アーク美術館からのメッセージを展示することで、来館者に現地の様子を知ってもらいながら、家庭で減災に取り組むきっかけとした。

第2章では、「岐阜県で起きた災害」と題し、県内で発生した大雨、火山噴火、地震による災害を紹介した。大雨においては、県内各地に被害をもたらした平成30年7月豪雨と令和2年7月豪雨を取り上げ、共同主催者である岐阜新聞社 岐阜放送より県内各地の写真と映像を、樹齢670年にもなる杉が倒木した瑞浪市大湫町より枝の一部を借用し展示した。火山噴火では平成26年に噴火した御嶽山（火口は長野県）を取り上げ、長野県王滝村より、当時火口付近に建てられていた山小屋の看板や噴石を展示した。地震では、明治24年（1891年）に発生し、岐阜県を中心に甚大な被害をもたらした濃尾地震を取り上げ、当館所蔵の錦絵や写真集などを展示した。特に、濃尾地震は世界でも最大級の内陸地殻内地震であることや、発生から130年という節目の年でもあるため、資料を多く展示し、展示ケースの一辺を使って紹介した。これらの展示により、来館者には岐阜県内においても自然災害はどこでも起こりうるという意識をもってもらふこととした。

第3章では、「もしもに備える」と題し、これまで見てきた大雨や火山噴火、地震への備えや、非常時に向けて各家庭で用意しておく非常持ち出し袋、備蓄品（成人男性3日分）を実物とともに紹介・展示した。さらに、岐阜県広域防災センターの協力により避難所用テントや段ボールベッドを設置したり、地域の市民団体が作成した、家具の固定の有無により被害の比較ができる室内模型を展示したりして来館者が体験しながら避難後の生活や家庭での減災対策を学べるようにした。また、最新研究として、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）が開発した、航空機に搭載し、上空から電磁波を照射して地上の観測を行う「航空機搭載合成開口レーダ（Pi-SAR）」のアンテナポッドや高速で半径60km圏内に降る雨の分布を3次元観測できる「フェーズドアレイ気象レーダ（PAWR）」の可動式模型を展示したり、当館の取り組みとして、これまで行ってきた被災資料の修復や、令和2年7月の豪雨で浸水被害を受けた、人吉城歴史館（熊本県人吉市）が所蔵していた植物標本の修復作業の様子や修復された標本を紹介・展示したりした。

2) 関連事業

10月9日（土）に、公益財団法人 地震予知総合研究振興会 東濃地震科学研究所の副首席主任研究員、木股文昭氏を講師に迎え、平成26年の御嶽山噴火や噴火予知の現状を解説して頂き、60名の受講者があった。11月27日（土）には気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 前館長の佐藤克美氏を講師に迎え、東日本大震災を振り返りながら、気仙沼市の復興への道のりをお話し頂き、37名の受講者があった。11月20日（土）、21日（日）には、岐阜県防災課と岐阜県防災センターの協力により地震体験車を招き、地震の揺れ体験を行った。地震体験車には、4名ずつ乗り、熊本地震や東北地方太平洋沖地震、南海トラフ地震の揺れ（南海トラフ地震は岐阜県で想定されている震度6強の揺れ）を参加者の希望に合わせて再現した。両日とも、岐阜県博物館が位置する岐阜県百年公園でイベント「未来につなぐ『わくわく Week!』」が開催されており、地震体験車にも多くの体験希望者が集まった。

3. 開催結果・考察

本特別展では、57日の会期中に、12,494名の来館者を記録した。このうち、普段利用の少ない小学校高学年や中学校からの団体利用が多く、明確に「特別展を見学するため」として来館した学校は13校、児童生徒合わせて778名であった。これは、理科で学習する気象や火山噴火、地震に関連させるだけではなく、総合的な学習の時間に防災学習を行っている学校が、より学びを深めるために「特別展を見に行く」という時間を作ったことによる。また、高等学校においても、生徒会が主体となって開催した防災啓発イベントに講師として招かれ、岐阜県内で起きた災害や、家庭でできる減災についてオンラインで講演を行った。学校団体以外にも、地域の防災団体による研修や自治体の防災担当者による視察、テレビ収録（ニュースの防災コーナーを展示室で収録し自身も出演）も行われ、12月18日から自治体の防災課が開催する防災展に展示協力することにつながった。

今回の特別展では、研究施設や美術館、市民団体、県や市の防災課など幅広い職種の方々から協力を頂いた。展示は、自然現象の発生メカニズムや発生した災害の概要、備える方法など、一つひとつ丁寧かつ詳しく解説したことで、パネルの数が79枚と膨大な数になったものの、現在使われている機器や錦絵などの歴史資料、最新研究、防災グッズといった実物資料や体験コーナーがあることで、飽きることなく展示室を回ってもらうことができたと考える。

防災を取り上げたことにより、学校の授業やそれに取り組む各種団体といったこれまでになく来館者の獲得につながっただけではなく、博物館が展示を行うことにより、科学や歴史の専門的な内容まで余すことなく展示することができ、より多くの方々が楽しめる特別展になったと考える。来場者アンケートにおいても、「いつも通る所に災害の記録があり驚いた」「展示から当時の様子を想像することができた」「防災グッズを少しでも買おうと思った」「過去の災害から備えまで、もっと学びたいと思った」などの感想があり、過去を知ることによって未来へ備えるきっかけの場を提供できたと実感した。この度の特別展では、博物館の「見て楽しむ」ことに加え、「来館者自ら考える」ことができた。

4. 謝辞

本特別展の開催にあたり、格別なご協力を賜りました皆様に感謝申し上げます。また、被災された皆様には、1日も早い復興を祈念し、心よりお見舞い申し上げます。

5. 展示風景



全景



観測機器（岐阜地方気象台蔵）



東北地方太平洋沖地震による被災資料
（リアス・アーク美術館蔵）



最新研究の紹介展示
（情報通信研究機構蔵）



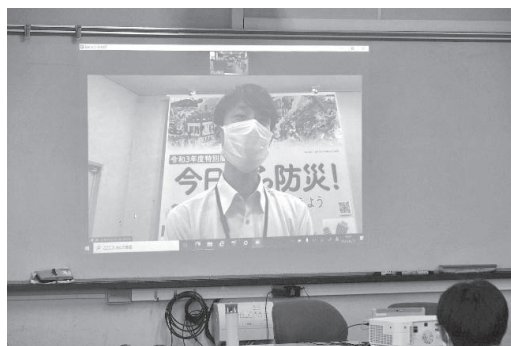
避難所の再現
（岐阜県防災課提供）



被災資料修復の紹介



小学生への展示解説



高校生へのオンライン講演
（画像提供：岐阜県立岐山高等学校）

